

「特別支援教育」の授業で、車椅子体験と白杖を使った視覚障害体験を行いました。



10月26日は、車椅子体験を行いました。

最初は自分だけの力で動きます。

学生からは「けっこう力が必要なんだね！」という言葉が漏れます。短大の事務所前からは、介助者が車椅子を押し始めます。狭い場所や下り坂、ちょっとした段差でもけっこう苦労していました。

最大の難関は、バスの乗り降りです。



「足を使って！」と指導されますが、なかなか難しいようでした。

4人がかりで乗せようと力を入れますが、中々進みません。

バスの中で、運転手さんが心配そうに見守ってくれていました。

バスの運転手さんに感謝です。

全員が車椅子乗車体験、介助の体験を終わらせて、ほっと一息。多くの学生が思っていたよりも大変だったと感想に書いていました。

11月12日は、白状を使っての視覚障害体験です。

アイマスクの下にティッシュを挟んで完全に見えない状態で歩きます。コロナ化でマスクもしていますから、顔が全て覆われてしまい、ちょっと息苦しいようですが、それよりも見えない怖さの方が増していて体験中は気にならなかったようです。



一回目は肘の上を、二回目は肩をつかみながら学内を一周します。

「右に曲がりますね」「ここから狭いので私の後ろを歩いて下さい」

「床に絨毯敷いてありますよ」・・・
等々たくさんの言葉かけが必要となることを学ぶことができました。視覚障害の体験で、想像していたよりもたくさん危険な場所があるのだということも学生は学べたようです。

